

## 清水町教育の充実・発展に向けて

### ～清水町教育研究所の取組～



清水町教育研究所  
所長 佐藤 貴光

#### ■はじめに

清水町教育研究所は、「地域に根差した研究所活動」を基本方針に掲げ、清水町教育委員会及び町内各校との連携を重視し、教育実践や授業改善に役立つ資料収集・情報提供に努めています。

研究所員は、町内の小・中学校教職員8名で構成され、所員一人一人の力量向上と組織の活性化を図りながら、清水町教育の一層の充実と発展に向けて活動に取り組んでいます。

#### ■近年の取組について

##### (1) ICT活用に関する研修会

クラウド環境における一人一台端末の有効活用を通じた授業改善が求められる中、ここ数年、長期休業中に電子黒板や各種アプリの活用方法に関する研修会を実施してきました。

今年度は、現場のニーズをより深く反映し、直接的な授業改善へとつなげるため、8月25日に清水町教育委員会主催の「清水町教師力向上



清水町教師力向上セミナーの様子

セミナー」を主管しました。本セミナーでは、各教職員の課題意識に応じて受講できるよう、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を支える「Google活用」など、5コースを設置しました。

研修後のアンケートでは、「学んだ内容を授業や校務ですぐに活用したい」「他のコースも受講したかったので、ぜひ続編を開催してほしい」といった前向きな意見が多数寄せられました。また、「『目標』を達成するための『手段』としてのICT活用の重要性を再認識した」という声もあり、ツールの習熟に留まらない本質的な学びにつながったことがう

かがえます。

また、受講者から寄せられた「実際の授業での活用事例を共有したい」という要望も踏まえ、研修の成果を日々の授業実践へと着実に還元できるよう、更なる研修機会の充実を図っていきたくと考えています。

##### (2) 「十勝清水学」の系統性に関する 情報収集・資料提供

本町では、「ふるさと清水に学ぶ活動を通して、ふるさと清水への愛着と誇りをもって社会に貢献できる人材を育てる」ことを目標に、町内各校で「十勝清水学」の実践を展開しています。地域の人材や資源を教材化するとともに、カリキュラム・マネジメントの核となる総合的な学習の時間を軸に、各教科等の目標や内容との関連を図った実践を進めています。

清水町教育研究所では、「十勝清水学」をより実効性のあるものとするため、各校の実践事例や地域教材の情報を収集してきました。学校間での円滑な情報共有を図るとともに、授業で活用しやすい資料提供を行うことで、教育課程の質の向上を

【目標】「北海道・十勝清水」を学ぶ活動を通して、「ふるさと清水」への愛着を持ち、社会に貢献する人を育てる。

学年	1年 (1028期)	2年 (1038期)	3年 (1048期)	4年 (1058期)	5年 (1068期)	6年 (1078期)
目標	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り
内容	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り
人	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り
成果	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り	長に誇り 清く正しく 誇りに誇り 誇りに誇り

【指導の重点】

- 小・中学校9年間の繋がりが教育を通して、基礎学力・体力の定着や、自ら事や目標の達成に向けて、たくましく歩む力を育成する。
- 温もりと誇りのある環境の中で、思いやりの心、豊かな感性を身に付けた人となる基盤を育てる。
- 家庭、学校、地域の連携のもと、地域の特性を生かした教育活動を通して「清水ならではの教育」を推進・継続・発展させる。

「十勝清水学」系列表（2024年度） 清水町立御影小・中学校

支援しています。

また、小・中9年間の系統性の確立を重視し、子どもの発達段階に応じた学習内容の整理と、学びのつながりやを担保するための系統性の確保に努めてきました。

今後も、持続可能で系統的な指導計画の構築に向け、情報収集と資料提供に取り組んでまいります。

### (3) 社会科副読本「しみず」の改訂

令和8年度末の完成を目指し、小学校社会科副読本「しみず」の改訂作業を進めています。今年度は、研究所内の社会科副読本改訂作業チームが中心となり、現行副読本の検証と修正事項のリストアップ化、今後の編集作業工程の明確化を図りました。現行副読本の検証に当たっては、特に次の視点を重視しました。

#### ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現と資質・能力の育成

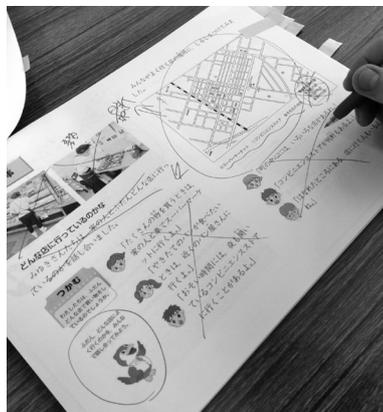
学習指導要領に基づき、子どもたちが自ら「問い」をもち、社会的な見方・考え方を働かせながら学びを深められる構成となっているか。

#### ② 清水町ならではの魅力再発見と掲載内容の精選

地域の「人・もの・こと」に焦点を当て、子どもたちが郷土への愛着を深められることを重視しつつ、内容の精選を行う。

今年度の検討内容及び抽出された修正事項を基盤として、今後、編集作業に取り組みます。子どもたち

にとつてより分かりやすく、学びの意欲を喚起する副読本の完成に向け、計画的に作業を進めます。



副読本改訂作業の様子

#### (4) その他の事業

研究所の取組を可視化し、学校現場等との協働体制を強化するため、「所報」及び「研究紀要」を発行・配布しています。年度末に発刊する「研究紀要」では、研究所による調査・研究の成果に加え、町内各校の共同研究の概要を網羅的に集約しました。

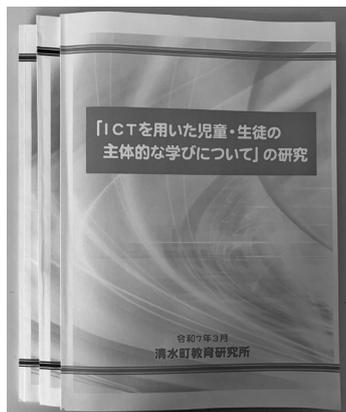
また、今年度新たに実施した「清水町教師力向上セミナー」については、次年度の開催に向けた準備を進めています。セミナーのコンセプトの再検討をはじめ、教職員の研修ニーズの把握や、魅力ある開設コースの選定等に着手しており、更なる

内容の充実を目指しています。

### ■おわりに

社会が激しく変化し続ける今、私たち教職員には「学び続ける教師」であり続けることが求められています。最新の教育動向を的確に捉え、これまでの実践を絶えずアップデートしながら、持続可能な社会の創り手となる子どもたちを育む歩みを止めてはなりません。

清水町教育研究所は、先生方の専門性と教育実践の質の向上を支える存在となるよう努めてまいります。地域に根差した「清水の教育」の更なる充実と発展に向け、全所員が一丸となり、皆様との協働・連携の下、取り組んでいく所存です。



令和6年度研究紀要